

保護者の方へ

現在、茨城県内では、「溶連菌感染症」や「流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）」、「水痘（水ぼうそう）」が流行しております。感染症の予防の基本は手洗い・うがいです。

下記の学校感染症に感染した場合は、欠席扱いならず「出席停止」の措置がとられます。

学校感染症一覧

	対象の感染症	出席停止期間の基準		
第一種	エボラ出血熱	第一種の感染症にかかった者については、治癒するまで。	※第一種若しくは第二種の感染症患者のある家に居住するものまたはこれらの感染症にかかっている疑いがある者については、予防処置の施行の状況その他の事情により、学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。	
	クリミア・コンゴ出血熱			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
	急性灰白髄炎（ポリオ）			
	ジフテリア			
	天然痘（痘そう）			
	重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）			
第二種	鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザA属インフルエンザAウイルスであって、その血清亜型がH5N1であるものに限る）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで。	※第一種または第二種の感染症が発生した地域から通学する者については、その発症状況により必要と認めるとき、学校医の意見を聞いて適当と認める期間。	
	インフルエンザ（鳥インフルエンザ〔H5N1〕及び新型インフルエンザ等感染症を除く）			
	百日咳			特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
	麻疹			解熱した後3日を経過するまで。
	流行性耳下腺炎			耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身症状が良好になるまで。
	風疹			発疹が消失するまで。
	水痘			すべての発疹が痂皮化するまで。
	咽頭結膜熱			主要症状が消失した後2日を経過するまで。
	結核			病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。
	髄膜炎菌性髄膜炎			病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで。
第三種	コレラ	結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く第二種の感染症にかかった者については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、上記の期間の限りではない。	※第一種または第二種の感染症の流行地を旅行した者については、その状況により必要と認めるとき、学校医の意見を聞いて適当と認める期間。	
	細菌性赤痢			
	腸管出血性大腸菌感染症			
	腸チフス			
	パラチフス			
	流行性角結膜炎			
	急性出血性結膜炎			
	その他の感染症			
<p>感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律114号）第6条第七項から第九項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、前項の規定にかかわらず、第1種の感染症とみなす。</p>				

○「その他の感染症」になり得る学校感染症

- ・溶連菌感染症
- ・感染性胃腸炎
- ・マイコプラズマ感染症
- ・手足口病
- ・伝染性紅斑（りんご病）
- ・ヘルパンギーナ
- など

医療機関で感染症と診断を受けましたら、担任までお知らせください。
学校から「出席停止について（通知）」の用紙を配付します。

保護者の方が記入し、担任に提出となります。

※診断書は必要ありません。

